

遊休農地解消に向けての取り組み ～桜島大根の栽培～

大淀町農業委員会

1. 大淀町の農業の概要

大淀町は奈良県のほぼ中央部、吉野川の北岸に位置しており、地形は東西に長く、北部は山林、南部は国道169号線に沿って帯状の市街地が、中央部には新興住宅地が広がりを見せています。

農業地域としては、西部の丘陵地に果樹園が集中し、梨の特産地として発展しており、東部では町特産のお茶や水田を中心とした農業が営まれています。

毎年11月頃には町の恒例行事である農林産物品評会・即売会が開かれ、出品される農作物は審査員や住民の方々から好評を得ております。



2. 農業委員会の取り組み

大淀町は近年、販売農家数の顕著な減少・農業者の高齢化・担い手不足などから、経営耕地面積は減少する一方であり、遊休農地の増大による周辺環境への悪影響も懸念される状況となっています。

そこで、大淀町農業委員会では「委員会で何か新たな活動に取り組もう」と委員間で話し合いを行い、鹿児島県での視察研修をきっかけに、遊休農地を解消し、世界最大種の桜島大根を植付することに決めました。地元農業委員が調整し、候補となる約7aの遊休農地を確保し、草刈・耕起・種まき・収穫等の作業をすべて農業委員の手で行いました。そして、収穫した大根は、町内の小・中学校、幼稚園・保育園の給食や病院食の食材として提供しました。

3. 今後の課題

大淀町においても例に漏れず、耕作放棄地の解消・担い手の確保が主な課題となっています。しかし町内の現状は、農業者の高齢化・若者の町外への流出による後継者不足により、特に担い手の確保に関しては深刻な状況にあります。今後、農村環境を守り、再生していくには、農家・非農家に関わらず地域住民が協力し合い、共同で地域づくりを行うことが必要であると思います。

今回の活動を今後も継続していくことで、地域住民に農地の大切さや農業の魅力を広く理解してもらい、それぞれの地域にある遊休農地の解消にもつながればと考えています。



活動の様子



小学校の給食等へ食材として提供